

ふれあい通信 いずみ

平成23年1月17日発行

11号

発行
社会福祉法人 いずみ会
秋田市泉菅野二丁目17番11号
TEL.018-896-5880



創立10周年特別講演会

若年性認知症
本人の思い
家族の思い

講師
越智須美子さん

平成22年10月17日(日)、創立10周年特別講演会が開催されました。講演では47歳で認知症を発症したご主人を16年間支え続けた、ご家族の視点から認知症ケアのお話をして頂きました。講演を通して私たちが学んだこと…

ウェルビュリーいずみ老人デイサービスセンター

日々の介護の中で、「デイサービスに助けられた」と話された、越智さんの言葉が印象に残ります。ご本人を見守り、心を寄せ、携わり、家族と共に喜びを感じられることに、私達は深く感謝し、毎日仕事をさせていただいています。

家族の気持ち、本人の気持ちをより深く理解し大切に思い、一人でも多くの方々に、安心した生活を送っていただけるよう、これからも努力していきます。

リンデンバウムいずみケアプランセンター

ケアプランセンターは、介護保険と家庭をつなぐ窓口です。今回の講演は、本人家族のおもいとして大切に聞きました。番組の映像では、本人の不安な表情やご家族の気持ちに伝わって来ると同時に二人の笑顔が目に残っています。

越智さんは、安心して自分らしく暮らせる社会を願ひ、保障や制度の不備も訴えました。私達は、様々な困難を乗り越えた越智さんの思いを心に刻み「自分らしく」を守る側として頑張りたいと思います。

リンデンバウムいずみホームヘルパーセンター

この講演会で、若年性認知症の方とご家族の思い・絶望・やさしさ・哀しみを強く感じました。今こそ認知症という病気に対する理解が広がって来ています。これも、当事者としての体験を贈ることなく、語ってくれた越智さんご夫婦が、各方面にメッセージを発信してくださったからと感じました。講演中は今接している利用者、そしてそれを介護するご家族の姿が浮かび、私達の援助方法に反省させられる部分も多々ありました。

介護サービスという名に恥じないように、病気に対する理解・知識・介護方法を個々に深めていきたいと思ひます。また、事業所としては当惑しているご本人や家族の力に少しでも役に立てるようにと切に思った講演会でした。

リンデンバウムいずみデイサービスセンター

これまで、認知症についての研修や勉強会等を通じて学ぶ機会がたくさんあり、知識を深め、職場では認知症の方と接し、どうすればよりよい介護ができるかと日々考えてきました。送迎等で家族の方との

地域ふれあいまつり

実行委員長 保坂 征勇

昨年の10月17日(日)に法人の創立10周年記念事業の一つとして、ウェルビュリーいずみを会場に「第8回 地域ふれあいまつり」を開催しました。オープニングでは、「秋田ムジークシヴエルマーブラス」の皆さんによる吹奏楽の演奏で、参加者と一体となった演奏と歌で盛りあがりました。

また「ウェルビュリーいずみこども園」の園児による歌や踊りは、10周年をお祝いする内容で、とても素晴らしいものでした。



会話を通して、介護の大変さも自分なりに理解しているつもりでいました。しかし、今回の越智さんの講演を聞き、その奥にある思いや願いまでは、気づいていなかったと思ひしられました。家族や本人の思いを尊重し、それに近づけるような援助ができる介護福祉士を目指し、今後とも研鑽をつんでいきます。



みんなの力が地域の力

泉学区市民憲章推進協議会

教養文化部長 遠藤 欽一

「十年一昔」と言う。社会福祉法人「いずみ会」が泉学区の一角に福祉施設を開設してから、はや10周年。「地域とともに」を理念に掲げての10年の歩みは、この地域の姿貌に大きく貢献。今や「福祉のまち 泉」の中核的存在と言ってもいい。

8回を数える「地域ふれあいまつり」は、施設利用者や地域の皆さんが和やかに交流する役割を果たしてくれている。また、町内会行事への協力や趣味のサークルへの場の提供等は、「地域福祉に貢献する」というもう一つの理念の着実な浸透を物語っている。

この地域に住む私達は、そのことにもっと目を向けて呼応していく必要があるのではないか。民生児童委員は定期的に施設を訪問しボランティア活動をしている。さらに市民憲章推進協議会の教養文化部は昨年のいずみ会創立10周年記念講演会の開催に力を合わせたという実績もある。そんな「共存共栄」の輪を更なる広がりにつなげたい。

編集後記

職員は10周年を迎えることができた喜びに感謝の気持ちを込めながら、ゲームや作品展示、遊び場、健康、軽食販売など各コーナーの企画・運営を担当し、たくさんの方々の皆様を迎えることができました。

地域の皆様にご協力を頂いたフリーマーケット、生花、野菜、陶芸の販売も大好評で、あつという間に完売しました。

「まつり」を通じた様々なふれあいの中で、あらためて地域の皆様のご協力があつてこそ「いずみ会」という思いを強くしております。ご協力いただいた皆様に厚くお礼を申し上げます。

ふれあい通信は、創立10周年記念号を発刊し、今回新たな気持ちで11号に取り組みました。今年は「卯年」で飛躍の年です。しかし、一步一步着実に前進する「亀」でもありたいと願っています。これからも「いずみ会」の情報発信源として、様々な視点から利用者の皆様や地域の皆様に明るく、楽しい話題をお伝えできたらと思います。

ケアハウス スプリングヒル
副主任 佐々木節子

「季節の行事」を楽しむ

特別養護老人ホーム リンデンバウムいずみ

特養では毎月行事を行い、利用者の皆さんに季節を感じてもらっています。開設10周年を迎えた昨年は新たな催しも行いました。

8月の夏祭りでは、恒例のヨーヨーすくいやゲームの他、屋外に出て「花火」を楽しみました。綺麗な花火に「子供が小さい頃よくやった」等と昔を懐かしむ声が聞かれました。

11月の開設記念祭では、プラランターにさつま芋を植え「収穫祭」を行いました。代表の方が上手に芋を掘ると皆さん拍手で収穫



芋 取ったどおあ〜



見て！久しぶりの花火よ！

を喜び、昼食でとん汁としておいしくいただきました。今後も皆さんに楽しみと笑顔のある生活を送っていただけるよう、スタッフ一同努めていきます。

元気の秘訣は？

ケアハウス スプリングヒル



バランスがととのいました。ハッ

元気にハツラツと生活してもらうために、週3回のテレビ体操と週1回の漢字パズルなどの脳力トレーニングを行っています。テレビ体操は約10分間ですが、うっすらと汗をかきながら一生懸命取り組んでいます。終わった後は、「気持ち良かった」「スッキリした。」との声が聞かれます。また、脳力トレーニングでは、「100点」を目指して問題を解いている姿は真剣で、その集中力には毎回驚かされています。これからも、「元気の源」になるような楽しい企画を計画します。

ア会議」を開催しています。昨年は初年度ということで泉地区及び保戸野地区を対象地区として、計3回の会議を開催することができました。

会議には、地域の各住民団体、医院、歯科医院、薬局、郵便局、銀行、警察、保健所、介護サービス事業所等、幅広い分野の関係者の方々に参加いただきました。今後の「地域包括ケア体制」づくりについて、さまざまな視点から意見交換することができ、改めて連携することの大切さを痛感した会議となりました。

今後とも各地域で開催する予定となっております。



「地域包括ケア会議」の開催

泉地域包括支援センター リンデンバウム

当センターでは、地域を支えるネットワークづくりを目標に、平成22年2月から「地域包括ケ

社会福祉法人 いずみ会 「理念」

- 1 私たちは利用者や家族の気持ちに寄り添い、ニーズに合わせたサービスを提供させていただきます。
- 2 私たちは豊かな知識を身につけ、質の高いサービスを提供させていただきます。
- 3 私たちは地域とともに力を合わせ、地域福祉に貢献させていただきます。

県立プールへレッツゴー！

ウエルヒューいずみ

プールと言えば、夏の遊びというイメージですが、こども園では、夏以外の季節にも県立プールに出かけ思う存分プール遊びを楽しんでいます。今回も4〜5歳児が、春と秋に3回出かけてきました。こども園のプールより何十倍も広いプールで水しぶきをあげながら思いっきり、もぐったり、追いかけてついたり、大きなビート板に乗って遊びました。こども園では大好きな仲間と一緒に、「プールサイドを走らない。大声で騒がない。」など公共のルールやマナーを大事に指導しています。



更なる充実を目指して

ウエルヒューいずみ 障害福祉サービスセンター（多機能型）

障害者自立支援法の下、新体系に移行してから2年が経過しました。これを機に、4事業それぞれで、新たな取り組みを始めたり、強化を図っています。一例



採用通知をもらいましたよ。

ますます元気！

ウエルヒューいずみ 介護サービスセンター

デイでは、利用者一人ひとりが、安心して楽しく一日を過ごしていただけるよう、お迎えしております。個別機能訓練は、皆さん意欲的に取り組まれ、ますます元気に、若々しくなっていくようです。これからの季節、風邪やインフルエンザ、ノロウイルスなどの流行があり、気をつけていかななくてはなりません。予防に力を入れて、皆さんの健康をお守りします。厳し



い冬を、元気に楽しく過ごせるように、心のこよった支援をしています。

「集いの場」

障害者就業・生活支援センター

生活支援等事業の一つとして毎月第3土曜日に欠かさず実施してきた余暇支援企画「集いの場」があります。当初は、気軽に立ち寄って仲間と触れ合える場、仕事で平日に相談出来ない方が来られるように…という主旨でスタートしました。最近ではトラブル対処法、ゴミの分別の仕方、救命救急法など社会人としての勉強会も行っています。今後も「楽しむ」だけでなく、現在または将来の自立生活に役立ついろいろな分野の講師を招いて開催していきます。



支援ハウス「朝の声かけ」

生活支援ハウス ウエルヒューいずみハウス

毎朝、8時30分に各部屋の皆さんへ声をかけることから仕事が始まります。「おはようございます。」の声かけで「おはよう。」と返事があれば、それだけのやりとりですが、「今日も元気よかったな。」と安心した気持ちになります。平成14年の入居開始より8年が過ぎましたが、外出表のチェックで、通院の回数も少しずつ増えてきたような気がします。廊下に顔を出しては、カウンター越しに体調のことやこれから先の不安なことなど話題になります。しかし、皆さんは一日一日を一生懸命生活され、夕飯どきになると味噌汁や煮物の香りが廊下たちこめます。さまざまな覚悟で一人で見事に自立している姿に頭が下がる思いです。



このキリタンポ、うめなァー。